

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-14832

(P2017-14832A)

(43) 公開日 平成29年1月19日(2017.1.19)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 0 6 B 1/10 (2006.01)	E 0 6 B 1/10	2 E 0 1 1
E 0 6 B 1/52 (2006.01)	E 0 6 B 1/52	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2015-134224 (P2015-134224)	(71) 出願人	304001914
(22) 出願日	平成27年7月3日(2015.7.3)		九州マルフジ建材株式会社
			福岡県嘉穂郡桂川町大字土師2208番地の3
		(71) 出願人	593159637
			株式会社オークマ
			福岡県朝倉市来春403
		(74) 代理人	100180264
			弁理士 西山 貴大
		(72) 発明者	佐藤 剛
			福岡県嘉穂郡桂川町大字土師2208番地の3 九州マルフジ建材株式会社内
		(72) 発明者	大隈 賢一郎
			福岡県朝倉市菱野1548 株式会社内オークマ内
		Fターム(参考)	2E011 EA01 EB03 ED04

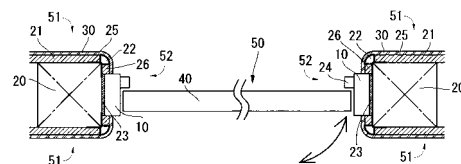
(54) 【発明の名称】 開口部構造

(57) 【要約】

【課題】 より安全で、かつ、よりすっきりとした外観の開口部を形成するために、散りを無くして壁の角部を円弧状とした開口部構造を提供する。

【解決手段】 戸枠10を備える開口部構造であって、壁端面52に設けられ壁厚よりも幅が狭い戸枠10と、壁面51と壁端面52を円弧状に繋ぐコーナー材22と、戸枠10を除く壁端面52とコーナー材22と壁面51との表面を覆うクロス25と、を有する開口部構造とし、コーナー材22と戸枠10の間に調整部材26を設けてもよいものとする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

戸枠を備える開口部構造であって、
壁端面に設けられ壁厚よりも幅が狭い戸枠と、
壁面と前記壁端面を円弧状に繋ぐコーナー材と、
前記戸枠を除く前記壁端面と前記コーナー材と前記壁面との表面を覆うクロスと、
を有することを特徴とする開口部構造。

【請求項 2】

前記コーナー材と前記戸枠の間に調整部材を設けることを特徴とする請求項 1 に記載の開口部構造。

【請求項 3】

前記コーナー材に巾木を設けることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の開口部構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、室内用のドア、引戸、折戸、物入れ等の戸枠を備える開口部構造に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

室内用のドア、引戸、折戸、物入れの扉等を設置する戸枠は、壁厚に対して散りによる段差を設けることで、工事の作業性を良くしたり、石膏ボードの角部の破損を防止したり、クロスや巾木の端部を納めやすくしたりすることができる。しかし、部屋のデザイン的には、散りを設けない方がすっきりとした空間になると考えられる。

【0003】

図 4 は、特許文献 1 に記載された、散りを設けない開口部構造の平面断面図である。この開口枠 100 は、枠材 101 が壁パネル 110 の開口端面の幅と同等もしくはそれよりも小さな幅に形成されたものなので、散りは設けられていない。そして、枠材 101 の凹部 102 に調整材 103 を挿入することで厚さの異なる各種石膏ボード 111 に作業現場で対処でき、壁の角部の補強と保護を図ることができるという特徴を有している。また、巾木 112 の終端部の納まりもよく外観上好ましいという効果を奏している。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】実開平 5 - 77485 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

本発明では、この開口部構造と比較して、より安全で、かつ、よりすっきりとした外観の開口部を形成するために、散りを無くして壁の角部を円弧状とした開口部構造を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本発明の開口部構造は、戸枠を備える開口部構造であって、壁端面に設けられ壁厚よりも幅が狭い戸枠と、壁面と壁端面を円弧状に繋ぐコーナー材と、戸枠を除く壁端面とコーナー材と壁面との表面を覆うクロスと、を有することを特徴とするものである。

【0007】

ここで、コーナー材と戸枠の間に調整部材を設けてもよく、また、コーナー材に巾木を設けてもよい。

【発明の効果】

10

20

30

40

50

【 0 0 0 8 】

本発明によれば、散りを無くして壁の角部をコーナー材で円弧状とすることで外観がすっきりとし、角部にぶつかっても安全であるという効果を奏する。また、コーナー材と戸枠の間に調整部材を設けることで、様々な壁厚に対応することができる。更に、コーナー材に巾木を設けることで、より外観をきれいに見せることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 0 9 】

【 図 1 】 本発明の開口部構造の平面断面図であって、開戸の場合である。

【 図 2 】 本発明の開口部構造の別の平面断面図であって、(a) は片面戸袋式の引戸の場合、(b) は両面戸袋式の引戸の場合である。

【 図 3 】 本発明の開口部構造の別の平面断面図であって、(a) は折戸の場合、(b) は物入れの扉の場合である。

【 図 4 】 散りを設けない開口部構造の平面断面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 0 】

以下、本発明の実施の形態を添付図面を参照しながら説明する。

【 0 0 1 1 】

図 1 は、本発明の開口部構造の平面断面図であって、開戸の場合である。この開口部構造は、開口部 5 0 に開戸タイプの扉 4 0 を設けるための戸枠 1 0 を設置するものである。戸枠 1 0 には、扉 4 0 を設けられるように、表側には戸当り 2 4 が備えられ、戸枠 1 0 の裏面側にはパッキン材 2 3 が備えられる。

【 0 0 1 2 】

図 1 に図示されている戸枠 1 0 は、壁の側面に設置された縦枠の部分である。この縦枠が設けられている壁の側面を壁端面 5 2 と呼ぶこととする。この壁端面 5 2 に設けられた戸枠 1 0 は、壁厚よりも幅が狭くなっている。ここで、壁厚は、基本的には、壁パネル 2 0 と、壁面 5 1 を構成する石膏ボード 2 1 と、その石膏ボード 2 1 の表面に貼られたクロス 2 5 と、を合わせた壁の厚さのこととする。なお、壁の下方(床面付近)には巾木 3 0 が設けられている。

【 0 0 1 3 】

壁面 5 1 と壁端面 5 2 との角部は丸く円弧状に繋がっている。円弧状の角部の内部構造としては、角を丸くしたコーナー材 2 2 が設けられている。コーナー材 2 2 としては、断面が略 1 / 4 円弧の部材であれば特に材質を問わず、樹脂材や木材など様々な材質のものをを用いることができる。

【 0 0 1 4 】

また、壁厚と戸枠 1 0 の幅の差が大きい場合には、コーナー材 2 2 と戸枠 1 0 の間に調整部材 2 6 を設けてもよい。つまり、壁端面 5 2 は、戸枠 1 0 と調整部材 2 6 とコーナー材 2 2 の一部とで構成され、場合によっては、調整部材 2 6 が不要場合もあると考えればよい。

【 0 0 1 5 】

壁の外面を形成するクロス 2 5 は、石膏ボード 2 1 からなる壁面 5 1 とコーナー材 2 2 と調整部材 2 6 を連続して覆い、壁端面 5 2 で戸枠 1 0 に突き当たるように貼付する。なお、調整部材 2 6 が無い場合には、コーナー材 2 2 と壁面 5 1 のみを覆うことになる。言い換えると、戸枠 1 0 を除く壁端面 5 2 とコーナー材 2 2 と壁面 5 1 の表面にクロス 2 5 を貼付する、ということになる。なお、巾木 3 0 に関しても、クロス 2 5 と同様に、戸枠 1 0 以外の壁端面 5 2 と壁面 5 1 を繋げるように設けることができるので、その場合には、コーナー材 2 2 の円弧に合わせた巾木 3 0 を設けることになる。

【 0 0 1 6 】

このような、開口部構造とすることで、散りが無く、従来とは異なり壁の角部が丸くなるので、角にぶつかっても怪我をする可能性は低くなり、かつ、従来と比べて部屋をよりすっきりとした外観とすることができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 7 】

図 2 は、本発明の開口部構造の別の平面断面図であって、(a) は片面戸袋式の引戸の場合、(b) は両面戸袋式の引戸の場合である。扉 4 0 を引戸にした場合であっても、戸袋部分(図の左側) 以外は、基本的には図 1 の開口部構造と同様の構成とすることができる。

【 0 0 1 8 】

図 2 (a) の片面戸袋式の場合は、扉 4 0 を閉めたときに片側からは見えないように石膏ボード 2 1 を壁端面 5 2 から延ばして壁としたものである。図 2 (b) の両面戸袋式の場合は、扉 4 0 を閉めたときに見えないように、扉 4 0 が壁の内側に納まる構造としたものである。いずれも壁を延ばした形状と考えることができ、これらの延ばした壁は、扉側にも石膏ボード 2 1 を設けている。また、延ばした壁の壁端面 5 2 は、円弧状のコーナ材 2 2 と調整部材 2 6 で構成される。なお、図 2 (a) に示すような片面戸袋式において、延ばさない側の壁の壁端面 5 2 は、図 1 と同様にコーナ材 2 2 と戸枠 1 0 で構成され、必要ならば調整部材 2 6 を用いればよい。

10

【 0 0 1 9 】

戸袋側の戸枠 1 0 は、扉 4 0 を閉めたときに当接する戸当り 2 4 を備え、戸袋の奥側に設けられる。特に、図 2 (b) に示すような両面戸袋式の場合は、壁に挟まれた戸袋の一番奥に設けられる。

【 0 0 2 0 】

以上のような構造とすることで、戸袋部分についても、散りが無く、壁の角部が円弧状になるので、非常にすっきりとした外観とすることができる。

20

【 0 0 2 1 】

さらに図 3 は、本発明の開口部構造の別の平面断面図であって、(a) は折戸の場合、(b) は物入れの扉の場合である。折戸の場合の扉 4 0 は、天井から吊り下げられ、折り畳むことで、扉 4 0 の開閉をするものである。図 3 (a) の折戸は二つ折の例であるが、当然三つ折り以上の場合もある。また、物入れの扉 4 0 は、図 1 の開戸とほぼ同様の構成であるが、枠材 1 0 との位置関係が若干異なる。なお、折戸や物入れの場合は、図 1 , 2 に比べて壁厚が厚くなることになるが、ここでは枠材 1 0 を設ける面を壁端面 5 2 とし、扉 4 0 と平行な面を壁面 5 1 とする。

【 0 0 2 2 】

折戸や物入れの扉 4 0 の場合でも、壁面 5 1 と壁端面 5 2 との角部に円弧状のコーナ材 2 2 を設けるといって本発明の開口部構造を適用することができる。また、調整部材 2 6 やパッキン材 2 3 を用いたり、クロス 2 5 を壁面 5 1 の石膏ボード 2 1 とコーナ材 2 2 と壁端面 5 2 の表面に貼付することも図 1 や図 2 の実施例と同様である。

30

【 0 0 2 3 】

このような開口部構造によって、開口部 5 0 の外観がすっきりとし、また、角部が丸いので安全であるという効果を奏することができる。また、巾木 3 0 もコーナ材 2 2 の円弧に合わせた形状とすることで、より外観を良好にすることが可能である。

【 0 0 2 4 】

以上、実施例として開戸、引戸、折戸、物入れの扉の例を示したが、本発明の開口部構造は、これらの実施例に限るものではなく、あらゆる扉の開口部構造に適用することが可能である。

40

【 符号の説明 】

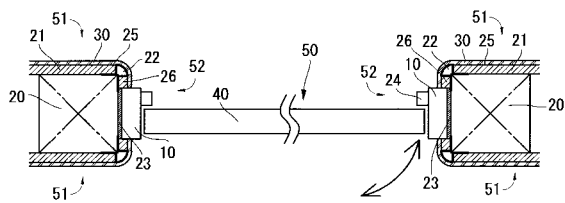
【 0 0 2 5 】

- 1 0 戸枠
- 2 0 壁パネル
- 2 1 石膏ボード
- 2 2 コーナ材
- 2 3 パッキン材
- 2 4 戸当り

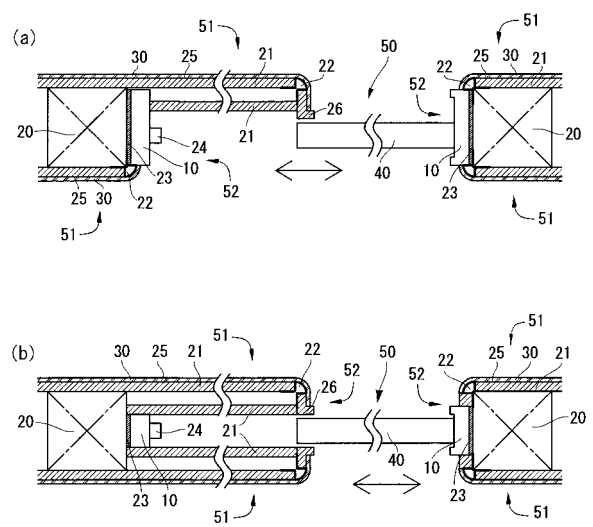
50

- 2 5 クロス
- 2 6 調整部材
- 3 0 巾木
- 4 0 扉
- 5 0 開口部
- 5 1 壁面
- 5 2 壁端面

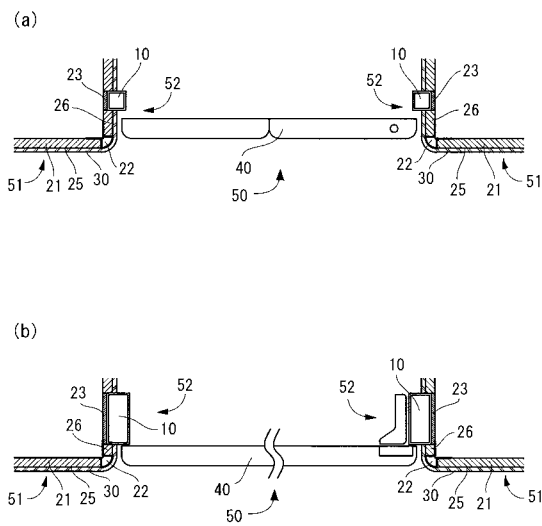
【図 1】



【図 2】



【 図 3 】



【 図 4 】

